

「心を与える」

まずは与えることから始めよう。富のあるものは富を、才のあるものは才を、時間のあるものは時間を。しかしなんと言っても、人が人に与える最高のものは心である。他者のための「思い」と「行動」に費やした時間、人とともにどれだけの時間を分け合ったかによって、真の人間としても証がなされる。

(いのちの言葉 日野原 重明 より)

大きな鞠のように咲く紫陽花は、同じ花でも時間の経過による色の移ろいから七変化と呼ばれ、ピンク、水色、紫の色鮮やかさが雨の季節にそっと心癒してくれます。雨上がり、子どもたちは園庭で育てている花が風にひらひらと揺れる様子を見たり、葉に付いた雨粒に手を伸ばし、指先に落ちる雫に驚くなど、それぞれの小さな発見を「なあに？」と質問することで言葉の世界や知識を広げています。また、晴れた日にはジョウロで水をあげるなど綺麗な花が咲くことや実がなることを心待ちにしています。植物を育てることで季節を感じ生長した喜びや時には枯らしてしまう経験の中から、思いやりや優しさ、美しいと感じる心、感謝の気持ちなど、様々な心情の芽生えが見えてきます。

人との関わりにおいても、それらの心はとても大切です。子どもを取り巻く大人として、心の成長の過程を見過ごすことなりたいですね。又、日々の関わりを重ねながらその時々のお気持ちに寄り添い、眼差しや言葉をおくり、じっくりと腰を据えて心の育ちを見守っていく大切さを感じています。

一日の終わり、眠りについた子の姿を愛おしく思い満たされる瞬間、誰かの為に、同じように温かい感情を向けられるのではないのでしょうか。そして互いに心を与え合い費やした時間さえ喜びと感じる人間でありたいものです。

この梅雨の時期にしかできない遊びや体験を楽しめるよう工夫していきたいと考えております。

クレイシュ保育園 園長 小清水 幸子

職員一同

6月聖句

主よ、お話しください。僕は聞いております。

サムエル記上 3章9節

6月主題

「どれどれ」0歳

- ・神さまに守られ、それぞれのペースで園生活に慣れていく。
- ・安心してできる大人のそばに、ありのままにいられる。
- ・草花や小さな虫を見たり触れたりする。

「どれどれ」1・2歳

- ・祈りや賛美が気持ちよくうれしい時になる。
- ・自分の周りに目が向いて関わりたがる。
- ・自然の音や色に気付いて触れていく。

～子どもたちの姿～

しとしと雨が降る日や夏を思わせるような暑さなど、天気の移り変わりが多い時期となりました。室内遊びでは、リトミックを取り入れピアノの音に合わせて歩くスピードを変化させながら身体を動かしています。「うさぎのように ♪」の所では両手で可愛い耳をつくりぴょんぴょんと飛び跳ねたり膝を曲げて上下に体を動かすなどして、全身で楽しさを味わっています。また、「列車のように ♪」の所では保育者と列を作りながら、リズムに合わせて「しゅっしゅー」と声を出し元気に歩いています。

一人ひとりの表現は様々ですが、個々に合わせ活動に少しずつ親しみが湧くような環境作りを考えていきたいと思っております。



6月の予定表	月	火	水	木	金	土	日
					1	2 第一回検体提出	3
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13 身体測定	14	15	16	17	18
	19	20	21	22 検体予備日	23	24	25
	26	27 誕生日会	28	29 避難訓練	30 クレイシュ通信		
<small>◎6月2日(金)は第一回検体提出日となります。詳細はお知らせを配ります。分からないことがありましたら、ご相談ください。 ◎汗をかく季節になってきましたので、毎日汗ふきタオルの持参をお願いします。</small>							